

## 株式会社愛媛CATV 第36回番組審議会 議事概要

第36回番組審議会は、2025年10月21日（火）、株式会社愛媛CATV1階オープンスクエアにて7名の審議委員が出席し開催されました。

審議会では「10月1日からリニューアルしたコミュニティチャンネルの改編」についてと、諮問番組「ふるさと文化探訪 伊丹十三記念館」とたうんニュース「河原学園で映像制作研修会」、みんなの物語伝承館「片目鮎の井戸」を視聴し、それらに関する審議を行いました。

### ■出席委員

|    |        |                              |
|----|--------|------------------------------|
| 会長 | 小林 真也  | 松山大学 情報学部情報学科 教授             |
| 委員 | 山本 大輔  | 愛媛県企画振興部デジタル戦略局デジタルシフト推進課課長  |
| 委員 | 片上 裕治  | 株式会社テレビ愛媛 報道制作局長             |
| 委員 | 花篤 大輝  | 株式会社愛媛FC営業部 プロジェクトマネージャー     |
| 委員 | 森本 健一郎 | 株式会社アイムービック 代表取締役            |
| 委員 | 荒金 志朗  | 松山市在住 CATV 加入者（石井地区まちづくり協議会） |
| 委員 | 福積 ゆいな | 愛媛大学社会共創学部3年生                |

### ■諮問番組

- ① ふるさと文化探訪 伊丹十三記念館
- ② たうんニュース「河原学園で映像制作研修会」  
みんなの物語伝承館「片目鮎の井戸（清水地区の民話）」

### ■議事

#### ①ふるさと文化探訪 伊丹十三記念館

15分という放送尺を活かし、内容を丁寧に伝えている点が高く評価された。特に、ロングカットを用いた演出により、実際に現地を訪れているかのような臨場感があり、視聴者にとって分かりやすく理解しやすい構成となっているとの意見が多く挙がった。

また、リポーターの自然なやり取りやインタビュー形式による進行も好評であり、「視聴後に実際に訪れてみたいと感じた」「過去に訪問経験がある場合でも新たな発見があった」といった評価が見られた。さらに、BGMの使い方についても、

映像に合わせた自然な切り替えがなされている点が評価された。

一方で、「内容が充実しているがゆえに、視聴のみで満足してしまう可能性がある」との意見や、「一部でカメラの映り込みが気になった」といった技術面での指摘も挙げられた。

## ②たうんニュース「河原学園で映像制作研修会」

### みんなの物語伝承館「片目鮒の井戸(清水地区の民話)」

河原学園の学生参加による民話制作番組については、若年層の人材育成および地域文化の継承という観点から、意義の高い取り組みであるとの評価が多く寄せられた。学生にとって自身が関わった作品が放送されることは、大きな達成感や動機付けにつながる。

また、地域に伝わる民話を映像として記録・保存することは、将来的なアーカイブとしての価値も高く、地域メディアが担う重要な役割の一つであるとの意見が挙げられた。

諮問番組を通じて、ケーブルテレビの役割についても多くの意見が出されました。地上波やインターネット動画では難しい、地域に密着した内容を深く掘り下げて発信できる点が、ケーブルテレビの大きな強みであると認識されました。

また、地域の歴史や文化を記録し、将来にわたって残していくアーカイブ機能や、学生との連携による人材育成の場としての役割も重要であるとの意見がありました。

以上